

北海道大学寄附講座「認知症先進予防・解析学 分野」の公開シンポジウムが開催され、北海道大学 寶金清博 総長からジャパン・メディカル・リーフ株式会社 有岡和彦社長に感謝状が贈呈されました。

ジャパン・メディカル・リーフ社の寄附により令和3年度より北海道大学大学院薬学研究院に設置されている寄附講座「認知症先進予防・解析学 分野」の公開シンポジウムが、2023年9月12日(火) 午後北海道大学学術交流会館で開催されました(写真1)。シンポジウムに先立ち、北海道大学への寄附講座の設置による研究・教育に対する多大な貢献に対し、北海道大学 寶金清博 総長より、ジャパン・メディカル・リーフ社 有岡和彦 社長に感謝状が贈呈されました(写真2)。

シンポジウムは、「神経機能の理解に基づく神経変性疾患・認知症の発症機構解明、早期診断法開発、新規治療法の実用化」に関して、国内外の第一線で活躍する研究者を迎え、一般市民にも公開する形式で開催され多数の方にご来場いただきました(写真3, シンポジウムポスター)。

日本を含む先進各国では、高齢化社会を迎え(日本はすでに65歳以上の人口割合が21%を超える超高齢化社会を迎えています)、高齢者の認知症対策が社会的に喫緊の課題となっています。認知症患者のおよそ70%はアルツハイマー病患者と推定されており、科学的エビデンスに基づいた発症を予防する方法の実施や、治療が可能な発症前対象者の早期発見を可能とする非侵襲的で簡単な血液診断法の開発、さらに、病気の進行を遅らせるだけでなく、認知機能低下の進行を止め、改善効果が期待出来る安全で低コストの薬剤開発と実用化が、世界で求められています。認知症先進予防・解析学分野は、アルツハイマー病の発症機構解明の基礎研究から、ヒトの髄液・血液を用いた早期診断法の開発、さらに海外製剤・機器メーカーと連携した無痛経皮投与治療薬の開発などを進めて来ました。今回のシンポジウムでは、研究の継続と実用化に力強い支援を頂いたジャパン・メディカル・リーフ株式会社と共に「認知症のない社会」を実現する第一歩として、寄附講座の成果の一部を関連研究者の皆様の成果と共に発表いたしました。本寄附講座から生まれた研究成果が多くの国で実用化され、寄附講座で育った若い研究者が国際的に活躍し、認知症の解決に世界で貢献する事を願っています。



(写真1) 学術交流会館正面玄関



(写真2) 感謝状贈呈式後の記念撮影
(左)有岡社長、(右) 寶金総長